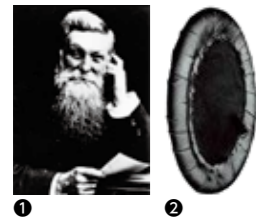


成長の軌跡

創業から110年超、タイヤメーカーとして独自のゴム技術を活かしながら、スポーツ・産産品へと事業領域を拡大し、持続可能な社会の実現に貢献してきました。

創業期

- 1888 ジョン・ボイド・ダンロップ(①)が世界初の空気入りタイヤ(②)を実用化。
- 1909 神戸工場操業開始。英国ダンロップ社の工場を誘致、日本初の近代工的ゴム工場として創業。



1963年~1986年

1963年に住友の経営となり、「住友ゴム工業株式会社」に社名を変更。1981年、現在のFALKENブランドにつながるオートタイヤ株式会社と全面業務提携(③)。(2003年に合併⑤)さらに1983年、英国ダンロップから欧州事業を、1984年には英独仏の6工場とタイヤ技術中央研究所を買収(④)。1986年には米国ダンロップを買収して世界のダンロップの盟主に。

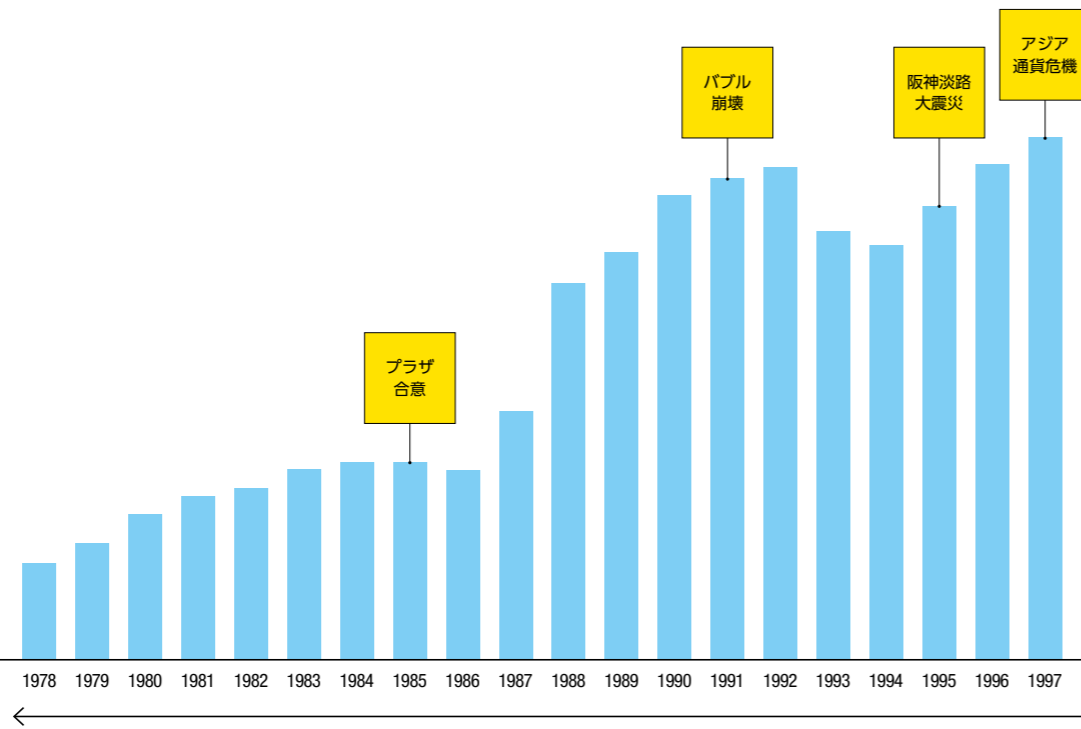


売上収益・売上高の推移

■ 日本基準
■ IFRS

1978年度
売上高 1,140億円
営業利益 72億円

創業1909年



1999年~2015年

1999年、米国グッドイヤー社とタイヤ事業におけるアライアンス契約を締結し、日本やアジアは住友ゴム、北米や欧州はグッドイヤーがダンロップブランドのタイヤの製造、販売を行う合併体制に移行。スポーツ事業では2003年に分社化後、2007年にはクリーブランドゴルフ社を、2014年にはフィットネス事業を営む株式会社キッツウェルネス(現 株式会社ダンロップスポーツウェルネス)を買収。産業品事業でも、2015年にスイスの医療用ゴム製品会社のロンストロフ社を買収して事業を拡大。この間、2009年に創業100周年を記念してタイヤテクニカルセンターを開設(⑥)。2015年、米国グッドイヤー社との提携と合併事業を解消。



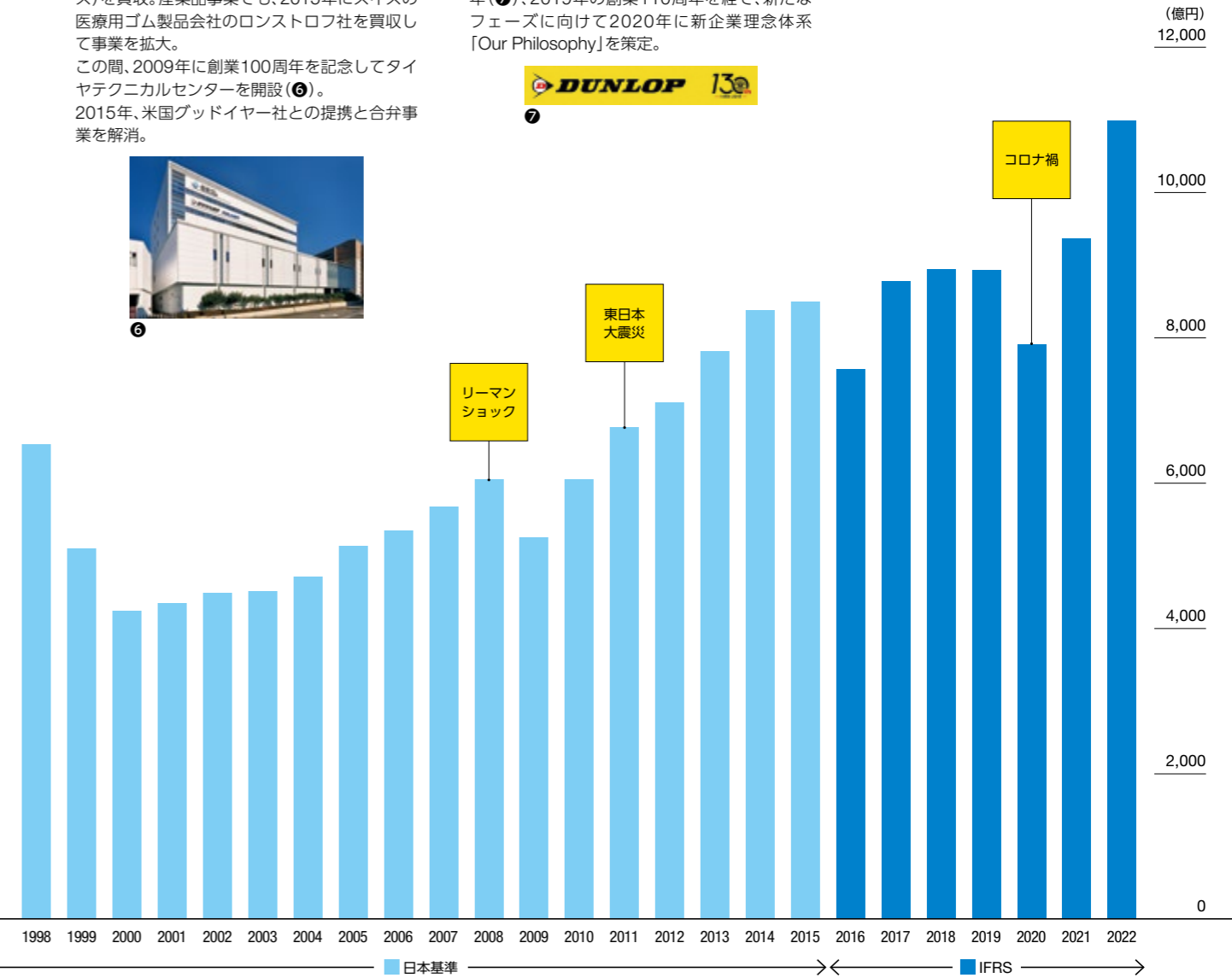
2017年~現在

2017年英国のスポーツダイレクトインターナショナル社から海外のダンロップ商標権、ダンロップブランドのスポーツ用品事業、ライセンス事業を買収。2018年には、住友ゴムグループのスポーツ事業を統合して一本化。タイヤ事業では2017年、英国大手タイヤ販売会社のミッチェルディーパー社を買収し、FALKENブランドタイヤの販売を強化。2018年の空気入りタイヤの実用化から130周年(⑦)、2019年の創業110周年を経て、新たなフェーズに向けて2020年に新企業理念体系「Our Philosophy」を策定。



2022年度
売上収益 10,987億円
事業利益※ 220億円

※ 事業利益=売上収益-(売上原価+販売費及び一般管理費)



主要な製品/技術

- 1913 自動車用タイヤの生産開始「自動車タイヤ国産第一号」誕生(⑧)
- 1930 日本初のゴルフボールと硬式テニスボールの生産開始(⑨)
- 1954 日本初のチューブレスタイヤを開発
- 1964 ゴルフクラブの生産開始



- 1966 日本初のラジアルタイヤ「SP3」の生産開始(⑩)
- 2000 初代「XXIO (ゼクシオ)」ゴルフクラブとゴルフボールを発売(⑪)
- 2012 戸建て住宅用制震ユニット「MIRAIE (ミライエ)」を発売(⑫)



- 2013 世界初*の100%石油外天然資源タイヤ「エナセーブ 100」発売(⑬)
*合成ゴムが主流になって以降(当社調べ)
- 2014 ラベリング制度最高グレード「AAA-a」を実現した50%転がり抵抗低減タイヤ「エナセーブ NEXT」発売



- 2015 新材料開発技術「ADVANCED 4D NANO DESIGN (アドバンスドフォーディー ナノ デザイン)」完成
- 2017 タイヤ技術開発コンセプト「SMART TYRE CONCEPT (スマートタイヤ コンセプト)」を発表
- 2018 テニスの四大会「全豪オープン」とオフィシャルスポンサー契約を締結(⑭)
- 2019 「SMART TYRE CONCEPT」の性能持続技術を採用した、フラッグシップ低燃費タイヤ「エナセーブ NEXT III」を発売(⑮)
- 2020 最上級の静粛性と快適性、最高レベルのウェット性能が長続きするプレミアムコンフォートタイヤ「VEURO VE304」発売(⑯)
- 2022 住友ゴム史上最高レベルの低電費性能を誇る住友ゴム初の市販用EVタイヤ「e. SPORT MAXX (イースポーツマックス)」を、EV化が急速に進む中国市場で発売